

哺乳類新聞

哺乳類に龍がいた

巨大な鳥が現れた!!

狩猛な肉食恐竜の存在を知らない世代が何代も続いた哺乳類にとって、その脅威はいかばかりであったろうか。まるで恐竜の後任をうけてくるかのよう

に、巨大化した鳥がにらみを利かせる。

突然、数メートル先の茂みの中から大きなものが躍り出た。好物の木の葉をのんびり食べながら、ヒラコテリウムの集団に緊張が走る。

肩高40〜50センチメートルのヒラコテリウムは自分たちの4〜5倍はあるというその巨大な鳥に焦りと心を合わせた頭が大きい。そして、さばきは石のように頑丈な。恐怖を感じたヒラコテリウムは身をよじるが、逃げはじめた。同時に巨大な鳥も走りだす。なにしろ大股だ。みるみるこちらに迫ってくる。

ついに最後尾の頭が追いつかれ、その木の幹のようたたい根で押さえ込まれてしまった。しかし、立ち止まるわけにはいかない。前を行くヒラコテリウムたちは二度



と後を振り返さず、森林の中に散っていった。古第三紀晩新世後期から始新世(5920万〜約3900万年前)にかけて、おもに北米大陸の森林でこんな光景が繰り広げられていたかもしれない。晩新世後期ごろに地上に現れた、飛べない巨大な鳥、恐鳥類。それは恐竜といふ捕食者の存在をすくうかき去った哺乳類にとり、新世の脅威だった。